

博物館だより



No.89

平成25年9月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666

お知らせ② 歴史文化カレッジ後援事業

講演会「犀川神事と山笠」

開催日：9月28日（土）14時00分～

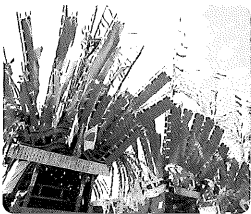
16時00分

場所：みやこ町中央公民館 2階視聴覚室
（みやこ町役場犀川支所となり）

講師：みやこ町郷土史研究会 一川淳江氏

演題：「犀川神事と山笠」

福岡県指定文化財「生立八幡神社山笠」
（犀川神事）の過去と現在について、長年にわたる調査成果の報告



■みやこ町郷土史研究会主催・
みやこ町歴史民俗博物館後援■

事前申込不要

聴講無料

お知らせ① 歴史文化カレッジ共催事業

講演会「黒田官兵衛の光と影」

開催日：9月8日（日）10時00分～

場所：みやこ町中央公民館 講堂
（みやこ町役場犀川支所となり）

内容：

10時00分～10時30分

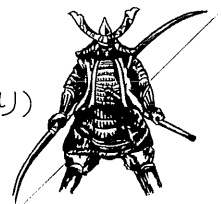
「遺跡からみた宇都宮氏と黒田氏」

みやこ町歴史民俗博物館 木村達美学芸員

10時30分～12時00分

「豊前宇都宮氏の物語～黒田官兵衛の光と影～」

みやこ町郷土史研究会 野中邦重氏



■みやこ町郷土史研究会・

みやこ町歴史民俗博物館共催事業■

要事前申込（電話33-4666博物館）

聴講無料



お知らせ④

「わたしの町の過去・現在・未来絵画コンクール」
「歴史たんけん作文コンクール」 **作品募集!!**

絵画コンクール

- ・京築地区に在住または通学の小中学生対象
- ・「わたしの町の過去」「わたしの町の現在」「わたしの町の未来」の3部門
- ・4つ切りサイズの画用紙使用。画材自由（油絵のみ不可）
- ・画用紙の裏に応募票（下記ホームページ掲載の募集要項にあり）を貼り付け

作文コンクール

- ・京築地区に在住または通学の小学5・6年生対象
- ・原稿用紙3～5枚程度で、歴史のことなら内容は自由
- ♪締め切りは、絵画・作文ともに9月20日（必着）
- ♪詳しいことは、ホームページ「みやこ町デジタルミュージアム」掲載の募集要項をご覧ください！

お知らせ③ 歴史文化カレッジ主催事業

特別講演会

古代の福岡 —弥生～奈良時代の京築—

開催日：10月6日（日）

13時30分～15時00分

場所：みやこ町中央公民館 講堂
（みやこ町役場犀川支所となり）

講師：九州大学名誉教授 西谷正氏

演題：「古代の福岡—弥生～奈良時代の京築—」



■当館主催■

要事前申込（電話33-4666博物館）

聴講無料

講演終了後、左記の絵画・作文コンクール表彰式を実施予定

みやこの歴史発見伝 67

古文書が語る村の生活と文化 14

山伏さんと小学校

勝山胎蔵院のこと

狐狸の仕業

左に掲げた史料1は、文久三
年(一八六三)に、仲津郡大橋村
不明になったことを藩に届け

(現行橋市)の庄屋が、同村住人
である久平という人物が行方

【史料1】

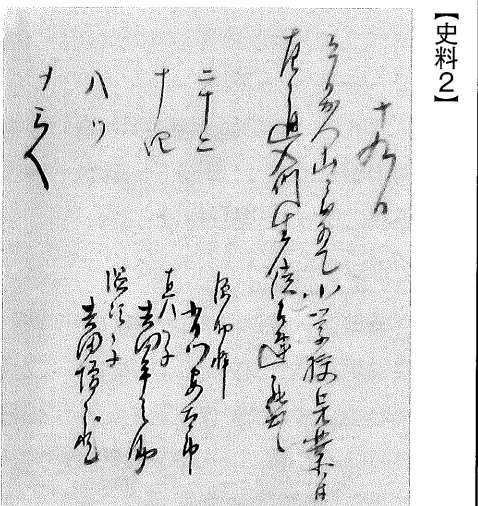
御届申上口上覚
一、歳三拾四 大橋村利右衛門弟 久平
但、中勢・長面
着用之品
一、生壁緋入堅縞単物
一、紺木綿帯
一、菅笠

【解説文】

右者兄利右衛門病氣二付、京都
御郡勝山村山伏二罷出考
囉ひ候由二一昨十八日四ツ時罷出
罷帰不申二付、迎之者差遣候
得共、勝山村江参り不申由二
罷帰候二付、何方之様罷出候
哉隣家之者共今朝迄方々
尋方仕居候得共、行衛相知不申、
家内不和合之儀無御座、不斗
罷出候儀者全狐狸之仕業共
二御有御座間敷哉奉存候、仍御届
申上候、以上
五月廿日 大橋村庄屋 白石治右衛門
(国作手永大庄屋文久三年日記五月二十日条
行橋市教育委員会所蔵)

【史料2】

今日かつ山ニおゐて小学校開業二付、
左之通入門生徒召連罷出候
二十二 源助碎 有門安太郎
十四 直八子 吉田平之助
八ツ 温次子 吉田増蔵
メ三人



【史料2】

今日かつ山ニおゐて小学校開業二付、
左之通入門生徒召連罷出候
二十二 源助碎 有門安太郎
十四 直八子 吉田平之助
八ツ 温次子 吉田増蔵
メ三人

【解説文】

今日かつ山ニおゐて小学校開業二付、
左之通入門生徒召連罷出候
二十二 源助碎 有門安太郎
十四 直八子 吉田平之助
八ツ 温次子 吉田増蔵
メ三人

勝山権現社・胎蔵院

行方不明になった久平が、兄
の病氣について相談しようとし
たのは、黒田村勝山の勝山権
現社(飯岳権現社。現在の勝山
神社)に住む胎蔵院という山伏
だったと考えられます。勝山権
現社は、正保二年(一六四五)に
起きたという早魘の際、雨乞い
に靈験があることで知られた
仲津郡大坂村(現みやこ町大
坂)の飯岳権現宮を勧請(祭神
の分霊を迎えて新たな社殿に
まつること)したものといわれ
ます(『京都郡誌』等)。史料が少
ないため、いつの頃から分か
りませんが、少なくとも江戸時

小学校開校

七二)九月、明治政府は、いわゆ
る修験道禁止令を公布しまし
た。これにより、日本全国に何
万人といた山伏たちが職を失
うことになり、彼らは別の人生
を歩むことになりました。
もちろん、胎蔵院も例外では
ありませんでしたが、当時院主
の湛然は名前を佐藤中(名前を
「種」と表記した文献もあり、中
の読みは「たね」と思われる)と
改めました。そして、明治六年

代後期、胎蔵院は
勝山権現社の別当
(統括者)を務めて
いました。
弘化年間(一八
四四〜一八四七)
頃、胎蔵院の院主
(当主)に智証とい
う人がいました。
智証は、京都郡上
稗田村(現行橋市)
の漢学者・村上仏
山の日記にたびた
び名前が出てくる
人物で、どうやら
仏山の「飲み友達」
だったようです。
また智証の長男は
湛然といい、仏山
の私塾・水哉園で
学んでいます。
明治五年(一八

四月、胎蔵院跡の自宅を校舎と
して、京都郡第三十四区(上黒
田・中黒田・下黒田・上田・箕田・
長川・宮原・浦河内の八村で
構成)の小学校を開いていま
す。この小学校には、のちに宮
内省の官僚として「昭和」の元
号を創案した吉田増蔵(当時八
歳)も通いました(史料2)。そ
して、この小学校が、現みやこ
町立黒田小学校の前身となり
ました。(川本英紀)